

DOWA

2013年度 中間期決算説明会

2013年11月12日

DOWAホールディングス株式会社

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

經營成績

2013年度中間期決算

2013年度上期の総括

単位：億円

	2012年度		2013年度		増減			
	上期実績	通期実績	上期実績	通期見込	上期		通期	
売上高	1,932	4,193	2,118	4,260	186	10%	67	2%
営業利益	113	245	163	305	50	44%	60	24%
経常利益	123	272	178	330	55	45%	58	21%
当期純利益	58	152	117	190	59	101%	38	25%

- 前年度との比較では、営業利益は44%増益の163億円、経常利益は45%増益の178億円、当期純利益は101%増益の117億円となり、増収増益を達成。
- 通期でも、増収増益を見込んでいる。

■マーケットの状況

- 廃棄物・リサイクル関連：国内発生量は横這いだが、アジア市場は拡大傾向。
- 自動車関連：国内・・・昨年度下期の落ち込みから、徐々に回復した。
海外・・・アジアの新興国の伸びが失速しているが、北米は好調。
- 電子部品・半導体関連：パソコンや携帯電話は減少が続いている。スマートフォン関連は、市場全体の成長は継続しているが、一部に在庫調整の動きあり。
- 建機・工作機械関連：海外は低迷続くが、国内は公共工事・住宅などで回復基調。

■金属価格・為替

- 金属価格：銅・亜鉛は需給に大きな変動無く横這い、貴金属は投資資金の流出などで下落。
- 為替：極端な円高水準の是正が定着し、前期比平均20円弱の円安水準で推移。

主要製品 販売・生産・処理量 推移

		2012年度				2013年度	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
環境・ リサイクル	国内廃棄物中間処理量	100	106	110	109	115	110
	リサイクル原料集荷量（小坂）	100	117	130	101	110	112
	東南アジア廃棄物処理額	100	94	100	127	109	125
製 錬	銀生産量（小坂）	100	96	117	119	125	120
	亜鉛生産量（秋田）	100	75	104	99	108	75
電子材料	化合物半導体	100	83	78	59	86	94
	LED	100	111	106	100	130	114
	銀粉	100	59	52	69	93	83
金属加工	伸銅品	100	98	87	87	98	97
熱 処 理	熱処理加工	100	94	94	99	100	103

※2012年度1Qを100として指数化

連結損益計算書

単位：百万円

	2012年度 上期			2013年度 上期			比較増減		
	第1四半期	第2四半期	累計	第1四半期	第2四半期	累計	第1四半期	第2四半期	累計
売上高	98,397	94,845	193,242	108,658	103,227	211,885	10,260	8,381	18,642
売上原価	82,866	84,785	167,652	92,071	88,627	180,698	9,204	3,841	13,045
売上総利益	15,531	10,059	25,590	16,587	14,600	31,187	1,056	4,540	5,596
販売費及び一般管理費、開発研究費	7,315	6,956	14,272	7,434	7,396	14,831	118	440	558
営業利益	8,215	3,103	11,318	9,152	7,203	16,356	937	4,100	5,037
営業外収益	1,508	1,325	2,833	2,305	616	2,922	797	△ 708	89
（受取利息及び受取配当金）	（ 291）	（ 35）	（ 326）	（ 327）	（ 39）	（ 366）	（ 35）	（ 4）	（ 39）
（持分法投資利益）	（ 487）	（ 702）	（ 1,189）	（ 810）	（ 119）	（ 930）	（ 323）	（ △ 582）	（ △ 258）
（その他の収益）	（ 729）	（ 587）	（ 1,316）	（ 1,167）	（ 457）	（ 1,625）	（ 438）	（ △ 130）	（ 308）
営業外費用	1,027	785	1,812	683	742	1,425	△ 343	△ 43	△ 387
（支払利息）	（ 441）	（ 424）	（ 866）	（ 395）	（ 366）	（ 761）	（ △ 46）	（ △ 57）	（ △ 104）
（持分法投資損失）	（ 0）	（ 0）	（ 0）	（ 0）	（ 0）	（ 0）	（ 0）	（ 0）	（ 0）
（その他の費用）	（ 585）	（ 361）	（ 946）	（ 287）	（ 375）	（ 663）	（ △ 297）	（ 14）	（ △ 283）
経常利益	8,695	3,642	12,338	10,775	7,078	17,853	2,079	3,435	5,514
特別利益	47	365	412	65	129	195	18	△ 235	△ 216
（固定資産売却益）	（ 46）	（ 41）	（ 88）	（ 22）	（ 6）	（ 29）	（ △ 23）	（ △ 34）	（ △ 58）
（投資有価証券売却益）	（ 0）	（ 0）	（ 0）	（ 11）	（ 44）	（ 55）	（ 11）	（ 44）	（ 55）
（補助金収入）	（ 0）	（ 0）	（ 0）	（ 21）	（ △ 3）	（ 18）	（ 21）	（ △ 3）	（ 18）
（その他）	（ 0）	（ 323）	（ 324）	（ 9）	（ 82）	（ 92）	（ 9）	（ △ 241）	（ △ 231）
特別損失	387	2,770	3,157	48	408	457	△ 339	△ 2,361	△ 2,700
（固定資産除却損）	（ 52）	（ 174）	（ 226）	（ 42）	（ 99）	（ 142）	（ △ 9）	（ △ 75）	（ △ 84）
（投資有価証券評価損）	（ 253）	（ 2,298）	（ 2,552）	（ 0）	（ 0）	（ 0）	（ △ 253）	（ △ 2,298）	（ △ 2,552）
（減損損失）	（ 0）	（ 58）	（ 58）	（ 0）	（ 48）	（ 48）	（ 0）	（ △ 9）	（ △ 9）
（災害損失）	（ 62）	（ 84）	（ 147）	（ 1）	（ 245）	（ 246）	（ △ 61）	（ 160）	（ 98）
（その他）	（ 18）	（ 153）	（ 172）	（ 4）	（ 14）	（ 19）	（ △ 13）	（ △ 138）	（ △ 152）
税金等調整前当期純利益	8,355	1,237	9,592	10,792	6,799	17,592	2,437	5,561	7,999
法人税等	2,620	1,029	3,649	3,101	2,587	5,688	481	1,557	2,039
少数株主損益	138	△ 27	111	143	26	169	4	53	57
当期純利益	5,596	235	5,831	7,548	4,185	11,733	1,951	3,950	5,902

連結決算 前年比（セグメント別・上期）

単位：億円

	2012年度上期			2013年度上期			比較増減			売上高、営業利益増減の内訳
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	
環境・リサイクル	470	25	24	481	46	45	11	21	21	廃棄物処理部門は、千葉の操業増などで処理量が増加したことに加え、コスト削減を行い増収増益。リサイクル部門は、海外からのリサイクル原料集荷を拡大し、またシュレッダー処理も堅調であり、増収増益。東南アジアの事業展開も順調に推移した。
製錬	915	12	26	1,028	45	58	113	33	32	銅、亜鉛とも製錬所の稼働が順調に推移し、新金属の回収も安定している。需要面では自動車向けなどで亜鉛の販売が好調であった。加えて為替相場が円安基調で推移したこともあり、金属価格が下落したものの大幅な増益となった。
電子材料	353	38	40	410	32	38	56	△5	△1	半導体部門は、PC向けの減少傾向は継続しているが、スマートフォン向け用途や窒化物半導体（HEMT）に注力し、増益を確保した。電子材料部門は、太陽電池向けなど銀粉の販売量を伸ばし増益。機能材料部門は、ユーザーの在庫調整や海外需要の低迷などにより減収減益となった。
金属加工	371	24	26	398	26	27	27	1	1	伸銅品部門は、自動車向け需要が前年度下期の落ち込みから回復したことにより、高水準であった昨年度上期並みの利益を確保した。めっき部門も、車載向けが堅調に推移し前期並みの利益となった。回路基板部門は、設備投資の回復に合わせ産業機械や電鉄向けの需要が増加し、増収増益となった。
熱処理	116	8	7	116	9	8	△0	0	1	工業炉（炉販・メテックス）部門は、前年度に海外大型案件があった影響などで減収減益。一方熱処理加工部門では、車用品の受注が堅調であったことに加え、国内工場の生産性向上を図り、増収増益となった。
その他 全社・消去	△294	3	△1	△316	3	△0	△21	△0	0	
合計	1,932	113	123	2,118	163	178	186	50	55	

経常利益 増減要因分析

(セグメント別・上期 前年比)

単位：億円

2013年度上期－2012年度上期	環境・ リサイクル	製錬	電子材料	金属加工	熱処理	その他	合計	
施策効果・販売増減など	22	10	△ 4	2	2	0	31	
うち実収差量（数量差）	－	0	－	－	－	－	－	
実収差量（単価差）	－	15	－	－	－	－	15	
原料条件（為替差・ベース条件差）	－	4	－	－	－	－	4	
払出時価簿価差・期末時価評価差	－	3	－	－	－	－	3	
その他特殊要因	－	△ 2	－	－	－	－	△ 2	
減価償却費	△ 0	4	△ 1	1	△ 0	△ 0	3	
その他固定費	△ 1	△ 3	△ 1	△ 1	△ 1	△ 1	△ 5	
営業利益 増減	21	33	△ 5	1	0	－	50	
営業外 収支の 影響	持分法損益	△ 1	△ 2	△ 0	1	－	△ 1	△ 2
	その他	1	1	4	△ 1	0	2	7
経常利益 増減	21	32	△ 1	1	1	0	55	

連結貸借対照表

単位：百万円

科 目	2013年3月末	2013年9月末	比較増減	科 目	2013年3月末	2013年9月末	比較増減
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	171,287	171,890	603	流動負債	133,125	131,606	△ 1,519
現金・預金	6,163	5,575	△ 588	支払手形・買掛金	42,403	35,945	△ 6,457
受取手形・売掛金	71,829	65,920	△ 5,908	短期借入金	52,514	58,878	6,363
棚卸資産	80,282	88,071	7,789	社債(一年内)	-	-	-
繰延税金資産	3,287	3,108	△ 179	コマーシャル・ペーパー	-	10,000	10,000
その他流動資産	9,783	9,270	△ 512	未払法人税等	5,353	4,607	△ 745
貸倒引当金	△ 59	△ 56	2	地金リース債務	9,519	4,802	△ 4,716
				その他流動負債	23,335	17,373	△ 5,961
固定資産	178,500	182,327	3,827	固定負債	74,260	67,480	△ 6,780
有形固定資産	103,647	103,630	△ 16	社債	10,000	10,000	-
無形固定資産	11,217	11,401	184	長期借入金	44,623	36,427	△ 8,195
投資有価証券	56,187	60,707	4,519	退職給付引当金	10,990	11,348	358
繰延税金資産	3,976	3,031	△ 944	繰延税金負債	2,969	3,984	1,014
その他の投資	3,638	3,722	83	その他固定負債	5,676	5,719	42
貸倒引当金	△ 165	△ 164	1	(負債合計)	207,386	199,086	△ 8,299
				(純資産の部)			
				株主資本	125,291	133,338	8,047
				資本金	36,437	36,437	-
				資本剰余金	26,362	26,362	-
				利益剰余金	68,180	76,230	8,050
				自己株式	△ 5,688	△ 5,692	△ 3
				評価換算差額等	8,302	12,869	4,567
				その他有価証券評価差額金	8,990	11,256	2,266
				繰延ハッジ損益	89	408	319
				為替換算調整勘定	△ 777	1,204	1,981
				少数株主持分	8,807	8,923	115
				(純資産合計)	142,400	155,131	12,730
資産合計	349,787	354,218	4,430	負債・純資産合計	349,787	354,218	4,430
				有利子負債	107,138	115,305	8,167
				現金・預金	6,163	5,575	△ 588
				実質残高	100,975	109,730	8,755
				自己資本比率	38.2%	41.3%	3.1%
				R O A	8.1%	10.1%	2.0%

連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円

	2012年 上期 実績	2013年 上期 実績	増 減		2012年 上期 実績	2013年 上期 実績	増 減
I. 営業キャッシュフロー				II. 投資キャッシュフロー			
税引前当期利益	9,592	17,592	7,999	設備投資	△ 6,981	△ 7,269	△ 288
調整項目（非キャッシュ）				有価証券売却・取得	△ 971	△ 551	420
減価償却費	8,245	7,943	△ 302	貸付金	42	△ 135	△ 177
持分法投資損益	△ 1,189	△ 930	258	固定資産売却	611	39	△ 572
事業転換、減損損失	-	-	-	その他	6	50	44
有証、固定資産除・売却損益	207	161	△ 45	(合計)	△ 7,292	△ 7,866	△ 573
投資有価証券評価損	2,552	△ 55	△ 2,607	III. 財務キャッシュフロー			
引当金の増減額	448	330	△ 118	借入金・社債増減	△ 7,753	7,661	15,415
利息（受取-支払）、配当金	1,403	2,237	834	自己株式取得・株式発行	43	△ 3	△ 47
法人税等	△ 2,094	△ 6,170	△ 4,075	配当金	△ 3,158	△ 3,744	△ 585
その他	318	△ 223	△ 541	その他	△ 184	△ 249	△ 65
PL項目合計	19,485	20,886	1,400	(合計)	△ 11,053	3,664	14,717
資産・負債の増加減少				現金等に係る換算差額	4	215	210
売上債権、仕入債務	△ 1,133	△ 430	702	現金等の増加	1,264	△ 690	△ 1,954
棚卸資産の増減	4,310	△ 7,453	△ 11,763	(新規連結、連結除外)	446	102	△ 344
その他	△ 3,056	△ 9,706	△ 6,649	現金等の期首残高	4,788	6,129	1,341
BS項目合計	120	△ 17,590	△ 17,710	現金等の期末残高	6,499	5,541	△ 958
(合計)	19,606	3,296	△ 16,309				
フリーキャッシュフロー	12,624	△ 3,973	△ 16,597	(参考)			
				有利子負債残高	110,354	115,305	4,951

2013年度連結決算見込

単位：億円

	2012年度 実績	2013年度 見込	増減
売上高	4,193	4,260	67
営業利益	245	305	60
経常利益	272	330	58
当期純利益	152	190	38

■マーケットの見通し

➤ 廃棄物・リサイクル関連

国内市場は横這い、アジア市場は拡大継続。

➤ 自動車関連

国内は比較的堅調も、海外については北米や新興国の景気動向により不透明感がある。

➤ 電子部品・半導体関連

スマートフォン関連や太陽電池向けは、着実に市場拡大する。TV・PC向けは減少傾向。

2013年度 下期前提条件と感応度

為替、金属価格

	2012年度		2013年度			<参考>直近
	上期平均	通期平均	上期前提	上期平均	下期前提	10月平均
為替(¥/\$)	79.4	83.1	90.0	98.9	95.0	97.9
銅(\$/t)	7,792	7,855	7,000	7,112	7,000	7,189
亜鉛(\$/t)	1,908	1,950	1,900	1,850	1,800	1,883
インジウム(\$/kg)	494	499	550	565	550	674

下期の前提条件と感応度（営業利益／半期）

単位：百万円/半期

	前提条件	変動幅	感応度 (差量・原料条件)
為替	95.0 円/\$	±1 円/\$	170
銅	7,000 \$/t	±100 \$/t	15
亜鉛	1,800 \$/t	±100 \$/t	150
インジウム	550 \$/kg	±100 \$/kg	270

※ 感応度については、現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の影響額は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

連結決算見込 前年比較（セグメント別）

単位：億円

	2012年度実績			2013年度見込			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境 リサイクル	1,040	64	67	970	87	89	△ 70	22	21
製 錬	2,050	46	72	2,140	70	89	89	23	16
電子材料	713	57	65	750	64	72	36	6	6
金属加工	739	48	51	780	51	55	40	2	3
熱 処 理	245	15	16	255	23	21	9	7	4
その他 全社・消去	△ 596	11	0	△ 635	10	4	△ 38	△ 1	4
合 計	4,193	245	272	4,260	305	330	66	59	57

投資と減価償却費の推移

単位：億円

	2011年度実績			2012年度実績			2013年度上期実績			2013年度見込		
	設備投資 株式投資	研究開発 投資	合計									
環境・リサイクル	54	4	58	58	4	62	21	2	23	80	5	85
製 錬	51	7	59	28	6	35	13	5	18	20	8	28
電 子 材 料	41	29	70	36	28	65	10	13	24	25	27	52
金 属 加 工	16	3	19	19	4	23	16	2	19	50	4	54
熱 処 理	42	2	44	40	3	43	11	1	12	30	3	33
全社、その他	7	0	6	17	0	16	5	0	5	20	0	20
合 計	213	46	259	201	46	247	78	24	103	225	50	275

減価償却費

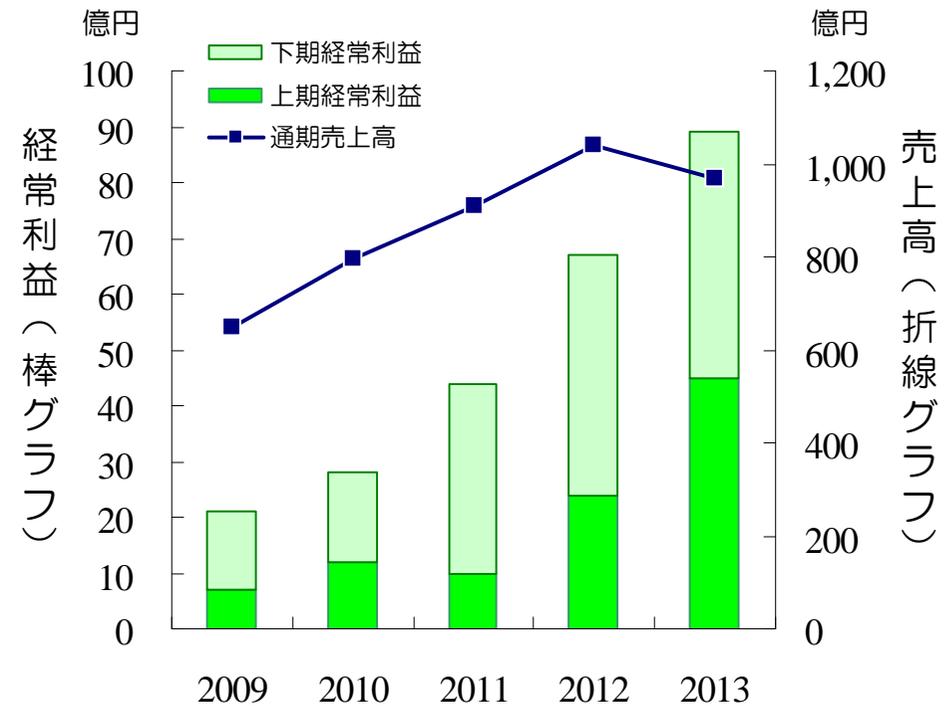
単位：億円

	2011年度	2012年度	2013年度	
			上期実績	年度見込
環境・リサイクル	50	47	22	47
製 錬	60	50	21	44
電 子 材 料	27	27	12	27
金 属 加 工	23	22	10	24
熱 処 理	16	17	8	18
全社、その他	4	4	1	5
合 計	183	169	76	168

各事業の状況と 今後の取り組み

2013年度の状況

- ・国内廃棄物発生量は、自動車関連などの製造業の好調を受け、全体的に堅調
- ・国内貴金属リサイクル原料の発生量は、貴金属相場の低迷や電子部品・半導体関連の低調継続を受け、横ばい
- ・タイ、インドネシアでの生産活動全体は好調継続、廃棄物発生量も増加傾向



※通期業績は見込

今後の取り組み

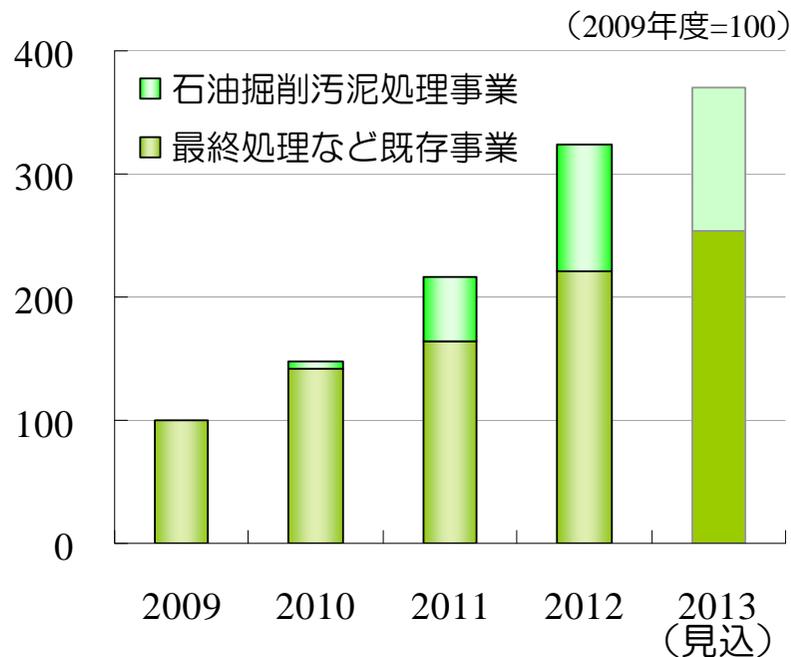
- 廃棄物処理**
 - ・低濃度PCB廃棄物処理のメニュー拡充：
 - 操業効率の向上と新規顧客への営業強化
 - 抜油・分解などを行う前処理設備を建設中、2013年度中に完成予定
- 土壌浄化**
 - ・国内の公共投資・不動産市況回復による需要増の取り込み
- リサイクル**
 - ・製錬向けリサイクル原料の海外を中心とした増集荷
- 東南アジア**
 - ・インドネシア等における石油掘削汚泥処理事業のさらなる拡大
 - ・新規拠点開設に向けた候補地の調査・選定

海外事業の拡大

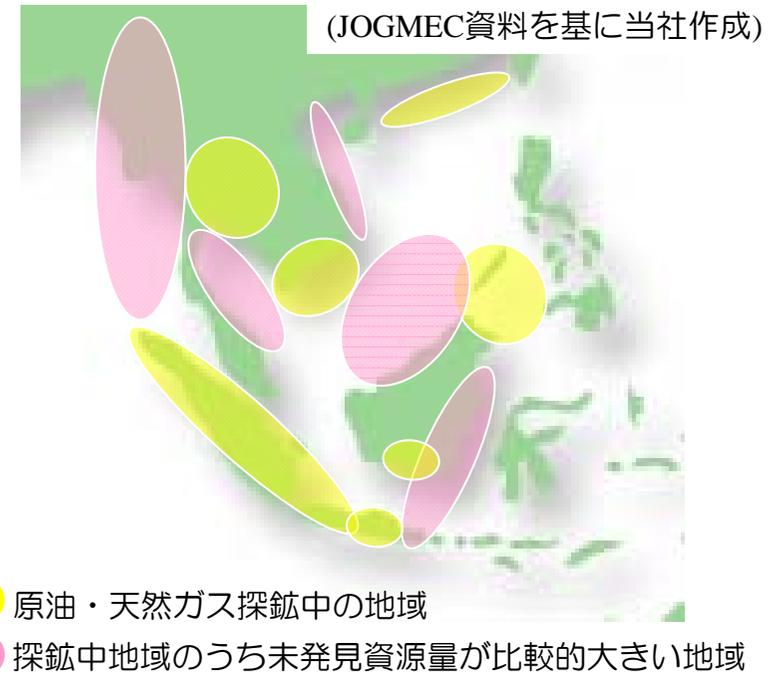
■ 石油掘削汚泥の処理（インドネシア）

- ・ PPLi社の石油掘削汚泥処理事業は順調に拡大、2013年度は売上高の約30%となる見込
- ・ 東南アジアの原油・天然ガス開発は広範囲に及んでおり、さらなる事業拡大を計画

【インドネシアPPLi社 売上高の推移】



【東南アジアの原油・天然ガス未発見資源量】

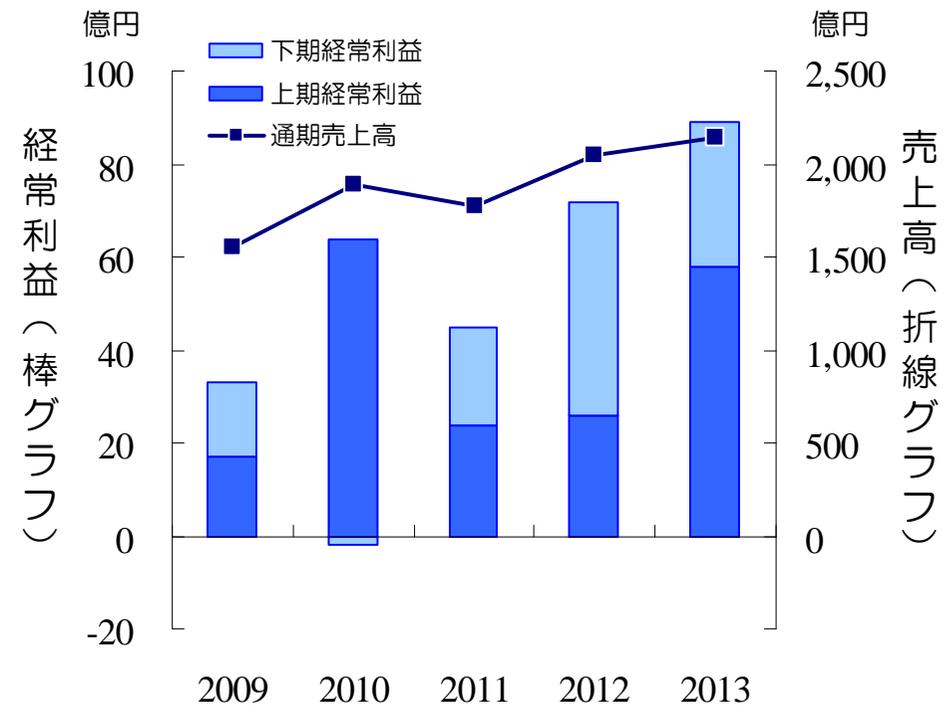


■ 貴金属リサイクル（シンガポール）

- ・ 既存の廃棄物処理に加え、貴金属リサイクル事業を2012年4月から開始
- ・ フィリピンなど周辺国からも集荷拡大 → 2013年度上期売上高は、2012年度下期比15%増

2013年度の状況

- ・ 銅、亜鉛価格は横ばい、貴金属価格は低迷も、為替は円安基調継続
- ・ 銅、亜鉛の国内需要は、建設や自動車向けでやや回復
- ・ 白金族原料は、海外からの集荷が増加傾向（北米、欧州、アジア）



※通期業績は見込

今後の取り組み

- 貴金属銅
 - ・ 小坂製錬でのスズなど副産金属回収強化
 - ・ TSL炉のフル稼働継続
- 亜鉛
 - ・ タイ亜鉛加工工場の稼働開始（2013年12月操業開始予定）
 - ・ エネルギーコスト削減など秋田製錬の国際競争力強化
- PGM
 - ・ 欧州、北米拠点における集荷体制の拡充

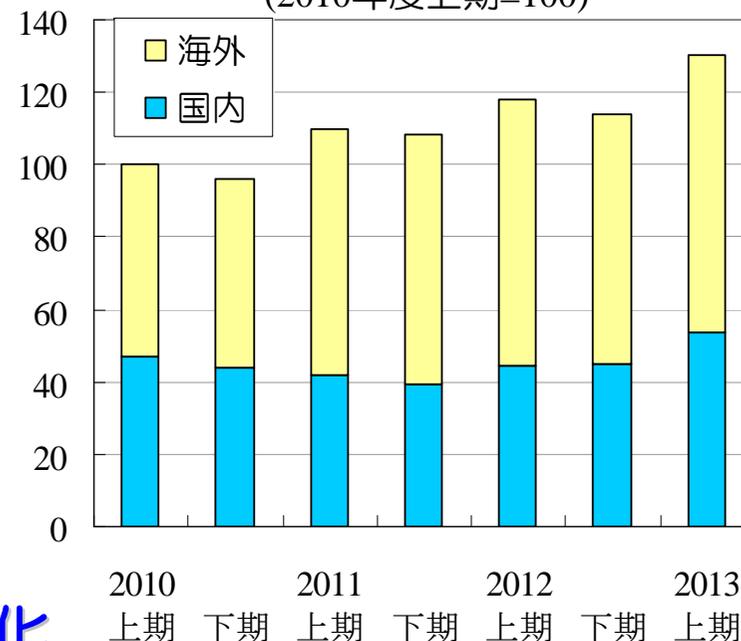
リサイクル製錬の強化

■PGM(白金族)原料のグローバル集荷拡大

- 国内：市場横ばいの中、シェア維持
- 北米：主力市場として営業人員増
- 欧州：2010年 サンプリング工場設立
2013年 営業人員配置、集荷体制強化
- アジア：今後の成長市場として集荷拡大中

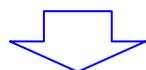
海外を中心にさらに集荷を拡大

PGM原料集荷推移
(2010年度上期=100)



■小坂製錬におけるリサイクル製錬強化

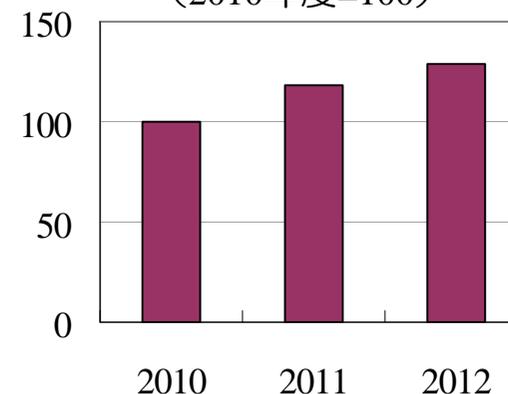
- 2008年リサイクル型製錬炉（TSL炉）本格稼働
- 廃基板をはじめ国内外のリサイクル原料処理を拡大
【2012年度は2010年度比3割増】



処理拡大に合わせてスズなど副産金属の回収を拡充

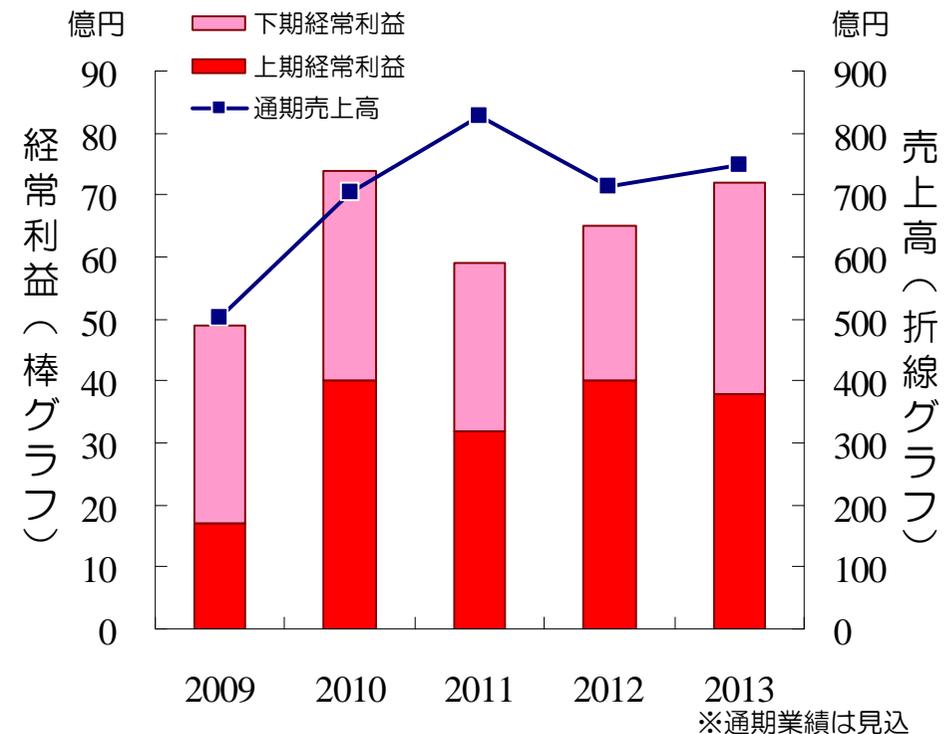
多様な原料からの金属回収で収益力強化

小坂:リサイクル原料処理量推移
(2010年度=100)



2013年度の状況

- ・ 半導体、電子部品関連は、PC向けで需要低調、スマートフォン向けは上期後半調整あるも下期以降回復へ
- ・ 太陽電池向けは日・米におけるメガソーラー市場拡大などにより需要増
- ・ データストレージ向けは高容量用途への切り替えが進む



今後の取り組み

- 半導体
 - ・ LED：近接センサー向け需要取込みと医療用途向けなどの拡販
 - ・ HEMT：早期認定取得とユーザー量産計画に合わせた拡販
- 電子材料
 - ・ 銀粉：増産体制の確立と次世代品向けの拡販
- 機能材料
 - ・ メタル粉：新規磁性粉の開発と生産性向上による収益力強化
 - ・ キャリア粉：新規向けの開発促進と既存向けシェア拡大
- 新規開発
 - ・ 深紫外LED：開発の促進と殺菌、医療用途向けの拡販

成長市場への取り組み

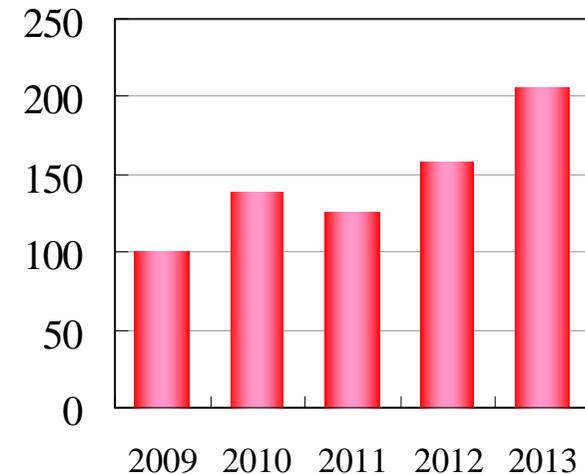
■太陽電池向け銀粉

2013年太陽電池世界需要：前年比で約20%増の見込み

- ・ 米国・アジア：メガソーラー向けを中心に市場拡大
- ・ 日本：買取制度などを契機に需要増

2013年度下期、生産能力を15%増強し、
拡大する需要に対応

銀粉販売量推移
(2009年度=100)



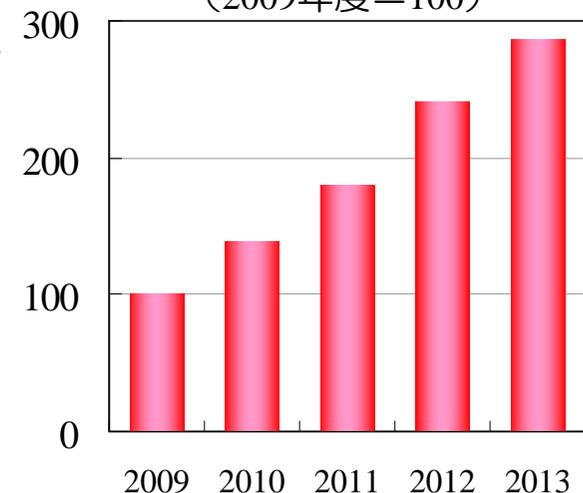
■近接センサー向けLED

2013年スマートフォン世界出荷数：前年比40%増見込み

- ・ 高価格機は新モデル発売など堅調
- ・ 新興国市場においても低価格機の販売が好調

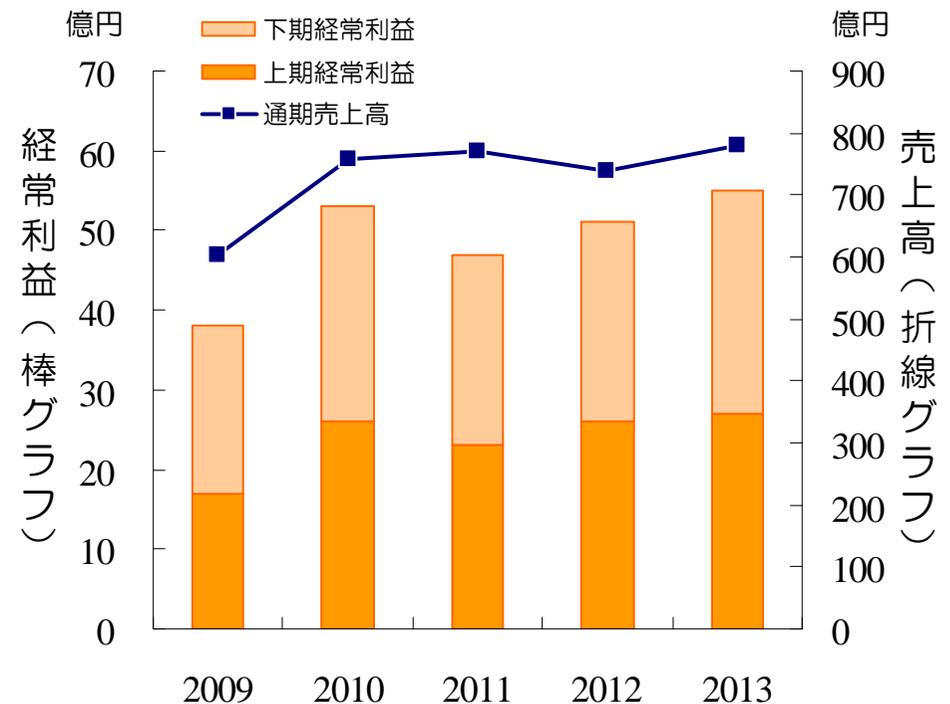
スマートフォン向けの需要拡大に対応し、
高出力LEDの生産能力増強・拡販

LED販売量推移
(2009年度=100)



2013年度の状況

- ・ 伸銅品：自動車向けは堅調に推移、半導体・電子部品向けはPC用途を中心に需要低調、スマートフォン用途は需要拡大
- ・ めっき：自動車向けを中心に堅調
- ・ 回路基板：産業機械向けは回復傾向、電鉄・新エネルギー向けは堅調



※通期業績は見込

今後の取り組み

- 伸銅品
 - ・ 自動車向け：ハイブリッドカー・電気自動車向け高特性銅合金の開発・拡販
 - ・ 半導体・電子部品向け：新ライン稼動による生産性・収益性の改善
- 貴金属めっき
 - ・ 国内・タイにおけるライン増設による自動車向け拡販強化
 - ・ 部分めっきなどの技術改善による収益力の強化
- 回路基板
 - ・ 電鉄向け製品の拡販とシェア拡大
 - ・ 新エネルギー（風力・太陽光発電）向け製品の量産体制確立

自動車分野への取り組み

<自動車分野の市況>

2012年度下期はIICA補助金の終了等の影響もあり
上期比10%減も、2013年度は上期・下期にかけ堅調

■伸銅品事業

<国内>

- ・ハイブリッド車・電気自動車向け高特性（高電導・高強度）銅合金の開発・拡販
- ・生産性・歩留向上による競争力の強化

<海外>

- ・中国・東南アジアの生産・営業拠点を活用した拡販

■貴金属めっき事業

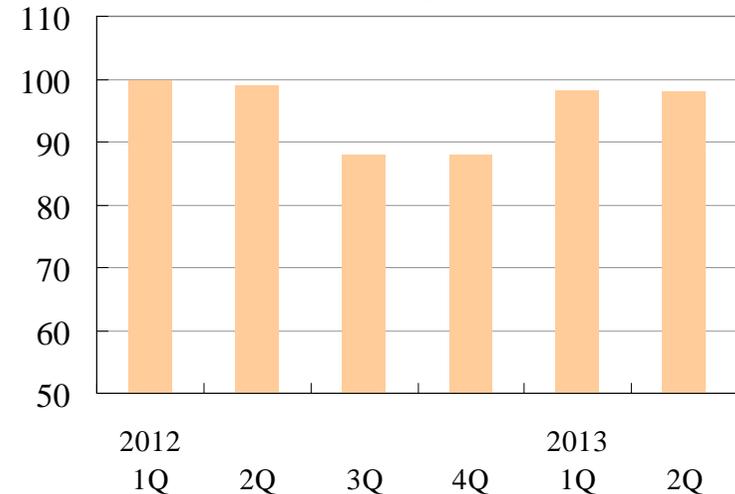
<国内>

- ・ハイブリッド車向け高圧コネクタ端子用めっきの拡販
- ・2013年度下期、ライン増強へ

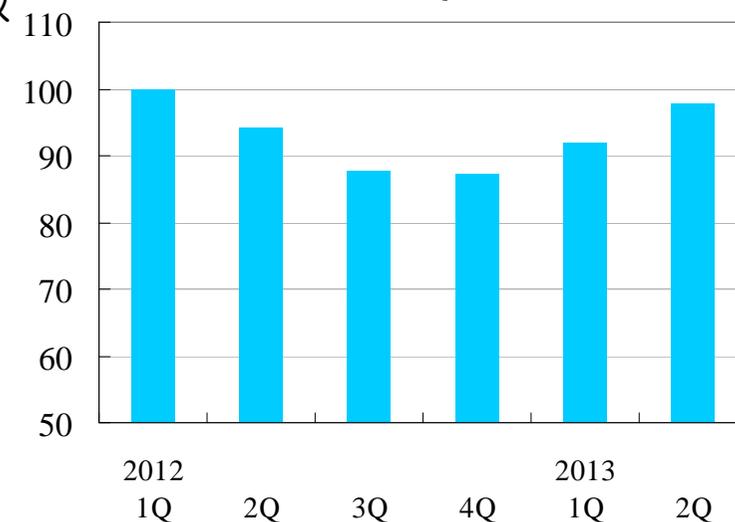
<海外>

- ・2014年度、タイのライン増設を計画

伸銅品(DOWAメタ)の販売量推移
(2012年度1Q=100)

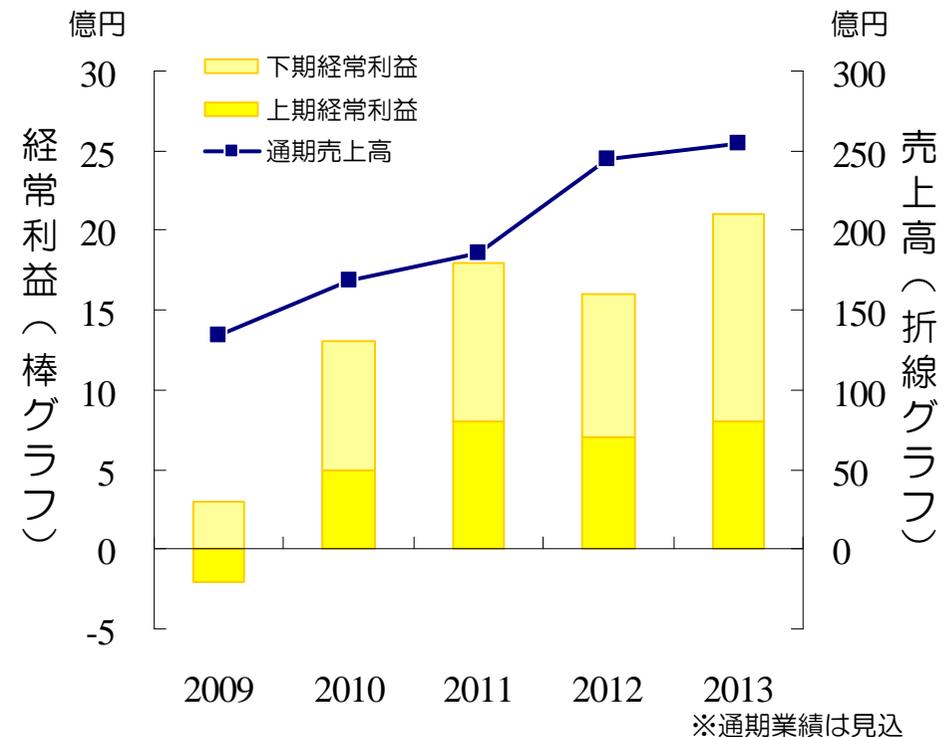


めっき製品の加工収入推移
(2012年度1Q=100)



2013年度の状況

- ・ 工業炉：海外向けを中心に販売堅調
- ・ 熱処理：自動車向けは国内・北米堅調、インドは足元減速傾向
：建設機械向けは、国内需要は好調、輸出は回復に遅れ



今後の取り組み

- 海外事業
 - ・ 現地製造による工業炉拡販とメンテナンス事業の拡大
 - ・ インドネシアにおける熱処理加工事業の立ち上げ
- 国内事業
 - ・ 工業炉部門（設計・製造）の拠点集約による収益力向上
 - ・ 熱処理工場間の生産ライン統合・整理による稼働率向上
- 研究開発
 - ・ 新規コーティング事業（DLC:ダ イモンド ライクカーボン）への参入

国内外の熱処理事業強化

■海外熱処理事業の拡大

<北米>

工場拡張完了、2013年度下期炉5台増設

<タイ>

2014年度に炉2台増設を計画

<インドネシア>

2013年10月より熱処理加工開始

<インド・中国>

現地製造の炉をインド・中国・北米へ導入

迅速な設備投資で需要拡大に対応

■DLCコーティング事業への参入

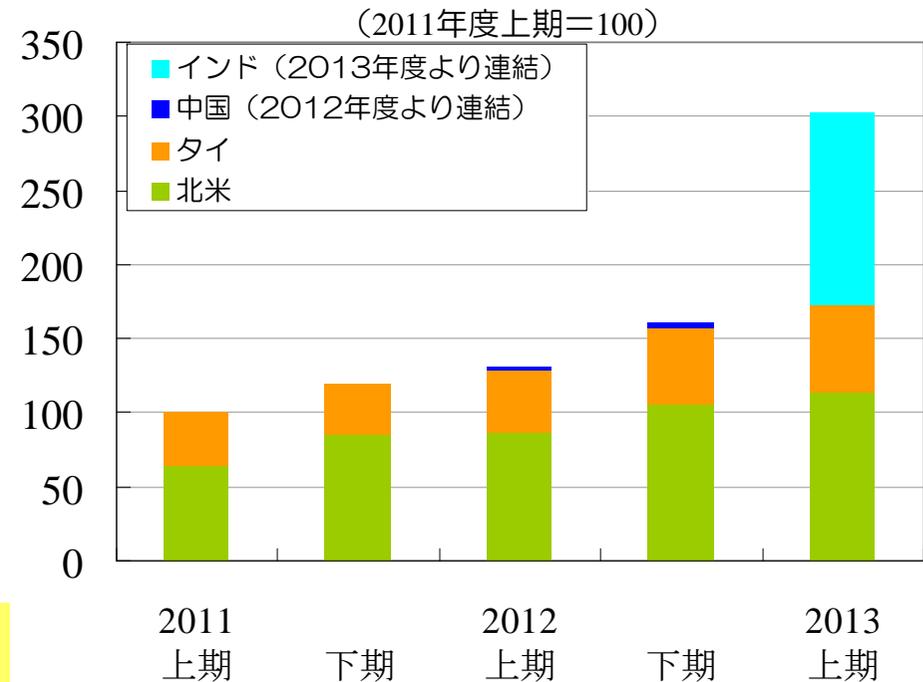
特長： 硬質の炭素皮膜の形成により、高硬度・耐摩耗性・低摩擦性を実現

用途： 自動車向け摺動部品（エンジン他）、金型部材など

市場規模： 年間100億円、市場成長率15%（推定）

売上高20億円(5年後)を目指し、早期事業化を推進

海外拠点の熱処理加工売上高の推移



經常利益・当期純利益の推移

